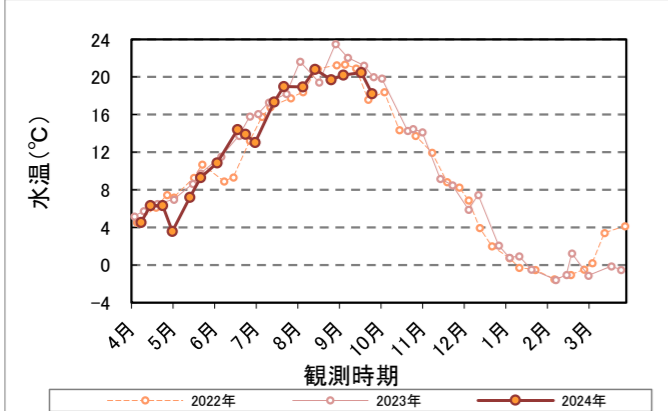


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2024年9月)

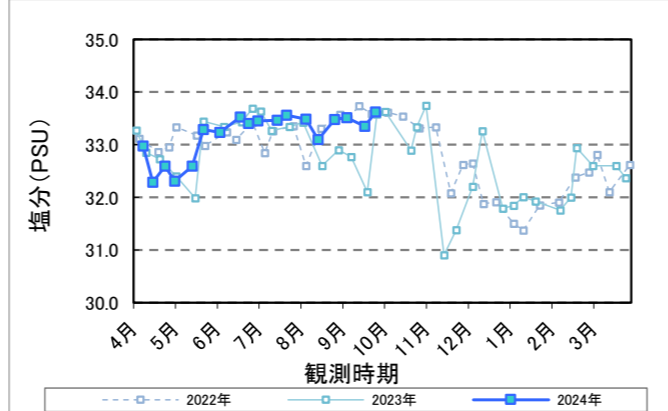
※海洋観測：紋別市
※動物プランクトン分析：(株)エコニクス

海洋環境データ

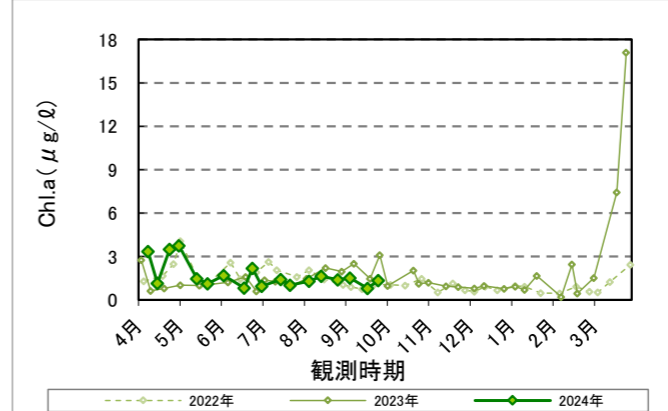
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



出現量の多かった種類



・Acartia omorii ●
(カイアシ類: ホビゲミジンコ)
体長: ♀0.9-1.3mm, ♂0.8-1.2mm。九州以北の北西太平洋沿岸に分布する。関東以南では春に内湾や沿岸で多くなる。



・Centropages abdominalis
(カイアシ類: セントロパジエス・アブドミナリス)
体長: ♀1.3-2.1mm, ♂1.2-1.6mm。日本周辺海域、渤海、黄海、オホーツク海、ベーリング海に分布する。



・Paracalanus parvus s. l. ●
(カイアシ類: コビゲミジンコ)
体長: ♀0.8-1.0mm, ♂0.7-1.0mm。全世界の沿岸域に分布する。日本では各地沿岸に分布するカラヌス目優占種の1種で、本州中部では春に、東北以北では夏に多くなる。



・Copepoda (nauplius)
(カイアシ類のノープリウス幼生)
カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返し複数の発生段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生類には餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。



・Oikopleura longicauda ●
(尾虫類: 村ガオオホマキヤ)
体長: 4.7mmまで(尾節を含む)、殻径: 1.5mm。黒潮域、対馬暖流域で最優占する。暖水の影響のある北方域や沿岸域にも広く分布する。北海道周辺海域にも普通に出現する。

概要

Table with 3 columns for dates: 9月4日, 9月17日, 9月25日. Rows include: 平均水温 (°C), 平均塩分 (PSU), 平均Chl. a (µg/L), 沈殿量 (ml/m³), 主な出現種 (listing species like Acartia, Paracalanus, Oithona, etc.), and 備考.

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl. aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl. a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである([+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(●冷水性種、●暖水性種、■汽水性種)。

※参考文献:

List of references including: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説, ②山路 (1966) 日本産海洋プランクトン図鑑, ③岩国市立微生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑, ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica, ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門, ⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus Centropages, ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について, ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類, ⑩水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新 北のさかなたち, ⑪古賀 (1960) Centropages abdominalis SATOのノープリウス幼生, ⑫伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長, ⑬大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類Polydora属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況, ⑭葦水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑, ⑮奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑【第二版】, ⑯大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か、在来種か? 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する, ⑰西村 (1992) 原色検索日本海産動物図鑑 I.